

一隅を照らす

～それぞれが自分の役割を精一杯果たせば、いずれ全体が良くなっていく～

令和5年度
大崎市立古川西小中学校
第8学年通信
12月15日

立志式を終えて

保護者の皆様、先日の立志式並びに保護者会へのご参加ありがとうございました。保護者会の冒頭でもお伝えしましたが、保護者の皆様にあらためてお礼を申し上げます。

8年生は夏休み明けから2週間に1回は学校・学年の行事がありました。8月の学年集会で、12月までの予定を次々と書き出したところ、本当にすべて行うことができるのだろうか、各行事で目指す力が生徒に付いてくるのだろうかと不安にもなりました。とにかく、与えられた時間と内容の中で、計画・実行・振り返りをできるように心掛けました。

次々と行事が行われる中、生徒たちはしっかりとその行事の意義を理解し、他者と協力しながら、自分たちなりの形を作ってきました。その力を少しずつ感じ始めたのは、文化学習発表会の頃でした。学年発表の内容は学年委員会を中心に企画しました。自分たちで練習日程を組み、グループリーダーと進み具合を調整し、練習の反省会を実施しました。進みの早いグループは他のグループに教え、それに対して素直にお礼が言える関係性があり、生徒同士の横のつながりも強くなってきました。学年全体に温かい雰囲気があり、心地よい爽やかな風を感じていました。自分たちで企画する力が付いてきて、私たち教員は一步引いて生徒の活動を見守ることができました。少しずつ教師の手を離れていく頼もしさも感じていました。

その後も職場体験学習、立志式と行事が続きましたが、8年生はとてもよく頑張りました。立志式は8学年として最も意義のある行事です。これまでの様々な体験学習から考えたことのみならず、今の自分と向き合って、これからの自分を考え、発表するというとても大きなエネルギーが必要な行事です。これも生徒にとっては勉強、経験です。自分の目標や将来の夢を語る生徒もいれば、自分の弱さを語る生徒もいました。立志式に至るまで、様々な体験学習をしてきましたが、ご家庭でもお子さんの背中を押し、学校に送り出してくれたことと思います。保護者の皆様が、お子さんの背中を押し続けているからこそ、一つ一つの体験学習を行うことができ、お子さんの成長につながっています。当日、発表まで辿り着かなかった生徒も、心の中で自分と向き合っていることと思います。そのような思いも受け止めながら今後も進んで参りたいと思います。保護者の皆様、今後どうぞよろしくお願い致します。

